

2024/3/11（月）

朝の礼拝

聖書 エゼキエル書 37章 1-6節（旧約聖書1357頁）

主の手がわたしの上に臨んだ。わたしは主の霊によって連れ出され、ある谷の真ん中に降ろされた。そこは骨でいっぱいであった。主はわたしに、その周囲を歩き巡らせた。見ると、谷の上には非常に多くの骨があり、また見ると、それらは甚だしく枯れていた。そのとき、主はわたしに言われた。「人の子よ、これらの骨は生き返ることができるか。」わたしは答えた。「主なる神よ、あなたのみがご存じです。」そこで、主はわたしに言われた。「これらの骨に向かって預言し、彼らに言いなさい。枯れた骨よ、主の言葉を聞け。これらの骨に向かって、主なる神はこう言われる。見よ、わたしはお前たちの中に霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る。わたしは、お前たちの上に筋をおき、肉を付け、皮膚で覆い、霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る。そして、お前たちはわたしが主であることを知るようになる。」

### 新たな始まり

聖書では人間は土の塵で形づくられ、神様が命の息を吹き入れると生きるものとなりました。原語で息は「霊」とも訳されます。「慰め」「励まし」とも訳されます。人の心に働きかける力と言ってもいいでしょう。人が死んで埋葬し、残った骨を見て、人には生きる気力、力が必要だと思ったのでしょうか。

聖書の民は土地、神殿、王もすべて大国に奪われ、捕らえられ遠い国へ連れて行かれました。彼らは自分たちの神様は負けた、死んだと疑いました。そこへ登場したのがエゼキエルという預言者です。ただ彼は言葉ではなくファンタジーのような物語で、彼らが解放され、復活し、すべてが新しく始まると伝えました。

水の流れる谷は雨期と乾期を繰り返し、人の生死の境目を象徴していました。神様はエゼキエルに「見よ、わたしはお前たちの中に霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る」と言いました。この後、骨と骨がカタカタと踊り出すように動き出し、互いにつながって、神様が息を吹き込むと、復活したと描かれています。

誰も時を遡って過ちを改められません。足りないところを補うことはできません。しかし神様が与える赦しと希望は神様の息吹、慰めであり、励ましです。彼らは新しい道、新しい出会いの始まりを信じました。復活は元通りになる、理想に近づくのでもありません。まだ見えない新たな始まりを告げているだけです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたを見失って絶望にあった人びとに、あなたは息を吹き込まれ新たに生きるものとされました。どうか自然災害などによって復興に尽くす人びとを励まし、生きる力を与えてください。また今、わたしたちは一年の学びを終えようとしています。クラスメートや部活動を終えていく先輩たち、離任される先生方を見送り、新たな気持ちで新しい年度を迎えることができますように導いてください。どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン